

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 門司 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

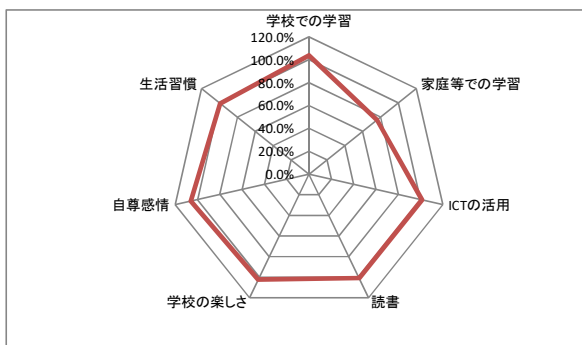
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率分布グラフを全国と比較すると、最頻値が全国よりやや下位(左)に偏っている傾向である。また上位層・下位層共に少ない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	文脈に則して、漢字を正しく書く問題。	
	努力が必要な問題	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容解釈する問題、行書の特徴の理解が必要な問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	正答率分布グラフを全国と比較すると、全国平均と比較して、全体的にグラフが左(下位)に偏っており、上位層が少ない傾向である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題。	
	努力が必要な問題	数の性質に対し、結論が成り立つための前提について考え、新たな事柄を見出し、それを説明する問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	正答率が全国平均と比べて高い問題の数が多い。全国平均と比較すると、やや二極化の傾向がみられる。また、回答率がおおむね低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	「生命」を柱とする領域。短答式の問題。思考・判断・表現の力を問う問題。	
	努力が必要な問題	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する知識及び技能の活用を見る問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校での学習については、全国平均に比べ肯定的に取り組んでいる生徒が多い。しかし、家庭等での学習については、全国平均に比べ学習時間が少ない傾向にある。 自尊感情については、全国平均に比べ、肯定的意見を回答した生徒が多い。特に質問内容「先生は、あなたの良いところを認めてくれる」「人の役に立ちたい」と考える生徒の割合が多い。 ICTの活用については、質問内容「学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」に対する肯定的回答が100%である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

知識・技能の能力を向上させるために、タブレットを用いたドリル学習や、問題集の取組を繰り返す。学習時間を確保するために、放課後に補充学習の時間を確保し、学習意欲の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭等での学習習慣を身に付けさせるために、各教科で家庭学習の課題を提示する。また、スマートフォンの適正な活用と家庭学習の大切さについて啓発していく。